

以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

9章「代謝／内分泌疾患に使用する薬」 1節「代謝／内分泌疾患」 3項「糖尿病治療薬」
p.229 本文および表9-6 主なインスリン製剤と組み合わせ注射製剤

【誤】

②作用時間

主なインスリン製剤を表9-6, 表9-7, 図9-4に示す。

表9-6 主なインスリン製剤と組み合わせ注射製剤

	分類	主な商品名	用法	作用発現時間	作用持続時間
単 剤	超速効型①*1	フィアスプ®, ルムジエブ®	毎食事開始時 (食事開始 2分以内)	5~15分	3~5時間
	超速効型②	ヒューマログ®, ノボラピッド®	毎食直前	10~20分	3~5時間
	速効型	ヒューマリン®R, ノボリン®R	毎食前 (30分前)	30~60分	5~7時間
	中間型*2	ヒューマリン®N, ノボリン®N	朝食前30分以内	1~3時間	18~24時間
	持効型①	ランタス®, レベミル®	毎日一定時刻	1~2時間	約24時間
	持効型②	トレシーバ®	毎日一定時刻	—	42時間より長い
組 み 合 わ せ 注 射 製 剤	組み合わせ	配合割合		特 徴	
	速効型+中間型	3 : 7		投与前の混和が必要	
	超速効型+中間型	3 : 7 , 5 : 5			
	超速効型+持効型	3 : 7		投与前の混和が不要	
	持効型+GLP-1	1 ドーズ (インスリン 1 単位+ピクトーザ®0.036 mg) ライゾテグ®配合注 フレックスタッチ®		投与は毎日一定の時刻	
1 ドーズ (インスリン 1 単位+リキシセナチド 1 μg) ソリクア®配合注 ソロスター®		1 日 1 回朝食前			

* 1 : 超速効型インスリンに添加剤を加えて吸収速度を向上。 * 2 : 投与前に混和が必要。

【正】

②作用時間

主なインスリン製剤を表9-6, 図9-4に示す。

表9-6 主なインスリン製剤と組み合わせ注射製剤

	分類	主な商品名	用法	作用発現時間	作用持続時間
単 剤	超速効型①*1	フィアスプ®, ルムジエブ®	毎食事開始時 (食事開始 2分以内)	5~15分	3~5時間
	超速効型②	ヒューマログ®, ノボラピッド®	毎食直前	10~20分	3~5時間
	速効型	ヒューマリン®R, ノボリン®R	毎食前 (30分前)	30~60分	5~7時間
	中間型*2	ヒューマリン®N, ノボリン®N	朝食前30分以内	1~3時間	18~24時間
	持効型①	ランタス®, レベミル®	毎日一定時刻	1~2時間	約24時間
	持効型②	トレシーバ®	毎日一定時刻	—	42時間より長い
組 み 合 わ せ 注 射 製 剤	組み合わせ	配合割合		特 徴	
	速効型+中間型	3 : 7		投与前の混和が必要	
	超速効型+中間型	3 : 7 , 5 : 5			
	超速効型+持効型	3 : 7		投与前の混和が不要	
	持効型+GLP-1	1 ドーズ (インスリン 1 単位+リラグルチド 0.036 mg) ゾルトファイ®配合注 フレックスタッチ®		投与は毎日一定の時刻	
1 ドーズ (インスリン 1 単位+リキシセナチド 1 μg) ソリクア®配合注 ソロスター®		1 日 1 回朝食前			

* 1 : 超速効型インスリンに添加剤を加えて吸収速度を向上。 * 2 : 投与前に混和が必要。

ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ちと回復の促進②『臨床薬理学』正誤表

第7版第1刷

以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

p. 13 編集・執筆

【誤】

大澤 翔 おおさわ しょう 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院手術部看護副部長，高度
実践看護師/周麻酔期看護師

【正】

大澤 翔 おおさわ しょう 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院手術部看護副師長，高度
実践看護師/周麻酔期看護師